野球部 センバツ出場決定

赤鬼の春Ⅱ 3

燃える赤鬼全国へ

▲センバツ出場決定の喜びを爆発させる野球部員

彦根東高校新聞

速報新聞

キマグレ

発行所
彦根東高等学校
新聞部
彦根市金亀町4番7号

1月26日に第90回記念選抜高等学校野球大会（センバツ）の招待校が発表され、本校の9年ぶり4度目のセンバツ出場が決定した。センバツ大会は今年3月23日から4月4日までの13日間、甲子園で開催される。

発表当日の午後には校長室に多数の報道陣が押し掛けており、野球部だけでなく多くの生徒や先生方も本校がセンバツ招待校として選出されることに大きな期待を寄せていた。15時27分頃に日本高等学校野球連盟から本校にセンバツに出場するかどうかを確認する電話がかかり、校長先生が出場する旨を伝え、本校のセンバツ出場が決定した。その後本校武道場で報告を待っていた野球部員に、校長先生からセンバツ出場の決定が発表され、野球部員たちは春の吉報に胸を躍らせるとともに、センバツに向けて決意を新たにした。

野球部主将の髙内希君（2―8）はセンバツ出場が決定したことを受けて「素直にうれしい。支えてくれた人たちに恩返しができてよかった」と喜びをあらわにした。また自身初となる甲子園に向けて「去年の夏は地方大会のときにベンチメンバーから外れてしまって、とても悔しかった。その悔しさが今につながっていると思う。全力で、チームの雰囲気を変えられるようにしたい」と抱負を話した。冬の間はセンバツ出場を想定したレベルの高い練習をしてきたそうで「今日からセンバツまでの期間は今まで以上に努力をする。甲子園で戦っていけるようなチームに仕上げていきたい」と意気込んだ。

監督の村中隆之先生はセンバツの招待校に選ばれたことがわかった瞬間を「招待校に選ばれたと言われるまで待つしかなかった。ずっと選ばれると信じて待っていた。選ばれたときはうれしかったし、ほっとした」と振り返られた。今年のチームについては「戦力的に充実している良いチーム。勝負強さが良いところ。点数に関わる場面で力を発揮できている。以前より今回のチームの方がもう一つ強い」と評された。また9年ぶりとなるセンバツに向けての思いを「完璧に完成しているチームで戦う訳ではない。結果にこだわって、滋賀県勢初となるセンバツ優勝を掴んで滋賀のみなさんに恩返しをしたい」と明かされた。

昨年秋の近畿大会でもピッチャーとして活躍した増居翔太君（2―4）は、センバツ出場が決定したことについて「今日までずっとセンバツへの期待でそわそわしていた。選ばれてうれしい」と笑顔を浮かべた。昨年夏と違い最高学年として甲子園でプレーすることについては「去年は先輩方についていってばかりだった。今年は自分のピッチングでチームを引っ張っていけるようにしたい」と思いを話した。

赤鬼の春Ⅱ

赤鬼の春Ⅱ

本校のセンバツ出場を受けて、新聞部は「赤鬼の春Ⅱ」と題して野球部のセンバツまでの歩み、センバツの結果をお伝えしていく予定です。ロゴの「赤鬼の春Ⅱ」は野球部監督の村中先生に書いていただきました。